

記出脱古蒙

邦人引揚者の脱出手記



いた。

戦車を有する有力なソ聯部隊がこの時張家口北方数キロの地點に前進して来た。好むと好まざるにかゝらず、玉碎は時日の問題である。と云ふのは、軍司令官から、軍に對してはなんらの指示が無いから、敵が進攻すれば断乎として戦闘を交へると指示されたからである。

さてこの日以来、居留民の直接の指導者たる大使館、領事館には何を問ひ合せても一向に要領を得た回答が得られなくなつてしまつた。狼狽した役人達には、臨機の處置をとるなどいふ心の餘裕がなかつたのだらう。その中に八里公使と駐蒙軍司令官との間に、戦後處理に關する意見が一致しないて困つてゐると云ふ噂が一般に傳へられてきた。大使館の居留民に對する指示も支離滅裂である。婦女子は北京方面に引揚げよと言つたかと思へば、次には最後まで踏み留まれよと云ふ。そうかと思ふと、今度は自由意志にまかすと云ふ。其度に邦人はバタ／＼と豫定變更をしなければならぬ。男子のほとんどは一線に狩り立てられて、張家口市内は婦人ばかりが歩き廻る。家財道具を馬車に乗せては右往左往する。これも領事館から北京方面への小荷物輸送が出来ること指示がなつたからだが、站迄持つて行くと站では受け付けないと断はられる仕末だ。

一、敗戦

重大放送の寸前。三十數名がラヂオを上に座に揃えて二列に並んだ。空中状態の悪いため、言葉は殆んど聴きとれなかつたが、玉音の沈痛な響きが誰の胸にも敗戦を直観せしめた。

ついでに現地放送にうつる。駐蒙軍司令官と公使の説明で無條件降伏がはつきりと知らされた。来るものが来た。何かしらホツとする面持が、一際列座の表情にひらめ

た。そうかと思ふと、今度は自由意志にまかすと云ふ。其度に邦人はバタ／＼と豫定變更をしなければならぬ。男子のほとんどは一線に狩り立てられて、張家口市内は婦人ばかりが歩き廻る。家財道具を馬車に乗せては右往左往する。これも領事館から北京方面への小荷物輸送が出来ること指示がなつたからだが、站迄持つて行くと站では受け付けないと断はられる仕末だ。

そうかうする中に、軍からソ聯軍隊の南下は友軍の偵察違ひだと發表されて、ホツト一日を過したかと思ふと、今度はソ軍の南下は樂觀を許さずと公表される。

このやうな日本人の混亂をよそに中國人一般の感情はこれまた異様だ。日本人を嘲けるでもなければ、氣の毒と思ふでもなしに、俺達が勝つたのだといふ風もない。全く氣にかけてゐないといふ思へない平靜さだ。たゞ、ホロ買ひだけは急に増えて、派手な長襦袢や色とりどりの美しい布圍などどこから買ひ集めたのか一杯にかついで忙しさに馳け歩いてゐる。あれやこれやの端々だしいうちに張家口の危機は迫つて来る。

二、危機を逃れて

夕方の六時になつてもソ軍入城の氣配は未だ無い。領事館からは次々に異つた指令が發せられた。七時頃になつて歸宅した私は、隣組中へ残つた一人の男子として、留守家族七戸約二十五名を保護誘導しなければならなくなつてゐた。邦人住宅地附近は次から次へと荷物を持ち子供を背負ひ或ひは手を曳いて脱出しようといふ人々が右往左往してゐるが、その七八割が父親を召集された留守家族である。これを指揮する軍人も警官も一人も見當らない。隣組の婦人達が、附近の人々は怖いと云つてみんな街の方へ行つて了つたがどうせうかと私のところへ集つてくる。誰も彼も出發の準備は出来てゐて、今となつては男の貴方一人が柱ですと云ふ表情である。それまでの指示では、引揚と確定すれば領事館から各區毎に指示する。混雜を防ぐ爲に出發命令のあるまで動くなどのことだつた相

附近の人が出てくを見送りながら私の歸るのを待つてゐたらしい様子である。裏山の銃撃はいよ／＼烈しくなつてゆく。八時頃には近所に二、三火の手のあがつた家もある。

私は、とにかく領事館に行つてくるからと皆を待たせて家を出た。領事館の正門に着くと、警官が八、九名ガヤ／＼聲高に話し合つてゐる。近づくにつれて隣組の名稱を云つて處置を問ひ合せてゐる。『君！何をしてゐるんだ。十時に軍の自動車が出る、それに乗り遅れたら北京まで歩くんだぞ』と怒鳴られた。そうかとはかりあわて、引返し、組員を集めて國民學校に向つた。皆思ひ／＼の荷物を持つて、子供をなだめたりすかしたり背負つたり、中には一人を背負ひ、一人を胸に縛り、両手にトランクを下げ、何か一杯詰めこんだ救急袋を標十字にかけあはせた女傑もある。S子も子供を背負つて両手に荷物を重さうにぶらさげてゐる。彼女も仲々氣丈な中の一人だ。さあ全員こ

下花園に到着すると、北京下花園間の鐵道が破壊されて汽車は何時来るか判らないから待機せよとのことだつた。ホームに集つた領事館員達の雜談は一寸面白いものであつた。『總領事はいゝな、自分の自動車に荷物は全部持つて来てゐるぞ』八里公使は俺達より一足先に此處に逃げて來てゐるんだ、軍人でも矢張生命は惜しいと見えるな』等々である。さういふ連中も亦荷物はなか／＼豊富で、後日天津では領事館の人は鍋釜まで持つて來てると盛んに新聞で叩かれたものだ。

列車は豫想よりも早く來て、待機中の吾々も無賃貨車に乗りこむやうに命ぜられ列車に來て見て驚いた。領事館の連中はすでに一貨車を占領してゐて後から着いた一般人に、此處は満員だ彼方へ行け彼方へ行け、と帶劍姿もの／＼しい。こゝに至つてさすがに今までも何も彼も御尤も、御尤もで通して來た一般人にもやうやく不満の感情が昂まり、横暴だと云ふ抗議の聲が起つた。金筋と櫻の澤山着いた警官が來て、『皆降りろ！降りんか！』と怒鳴るが一向に降りない。すつたもんだのひと／＼きの後やつと一人降り二人降りして全員降りさうに見えたが、國民服姿の文官らしいのが一人その着飾つた妻君と共に遂に下車しなかつた。これは高官と見えて、自分より下級者の命令に従ふの要なしと自認したものらしい。かくて吾々ホームの連中はこれに乗

多い上に單一グループだ。最上とはゆかぬまでも比較的快的な旅が出来たわけだ。此處では約半數の人々が列車に乗り残さされた。汽車は敵の防害の無い限り順調に北京に向つて走つた。然し各自の荷物で、記帳面に區劃された領事館側と吾々一般側との間には、何か白々しい氣分が残されてしまつた。

三、天津へ

二十二日の夕方、私達の列車は北京郊外に到着した。皆最早到着したのも同然と明るい喜びに溢れてゐるその時、張家口で見馴れた軍の副官がやつて來て、『北京は食糧その他の計劃のため蒙疆側は天津に集結と決つた』と告げる。驚いた列車の世話役が疲勞や健康上からも、ぜひ豫定通り北京に集結させて欲しいと申し出たが勿論無駄だつた。しかし爾後當局の力を一切借りずに歸國の日までやつて行けといふ者だけは下車を許すといふので數名が下車した。私達は更に天津に向つて出發することになつた。天候は雨をふくんで今にも降りさうな氣配である。豐臺に到着した列車はいつかな動かうともしない。路線を妨害されて天

雨。老人子供の病氣は増える一方である。今や二輛の客車を巡つて一問題がもちあがつた。といふのは、病人、老人、幼児、妊婦を客車に乗せやうと云ふのである。豐臺から天津までは長い距離ではないのだが、それでもこの場合貨車と客車とは大違ひだ。この天候では降雨は必至だ。しかも列車が順調に走るものと思へない。この間に領事館の指示で配車がなされた。そして領事館の連中はまたしても當然のやうに、最後尾の客車に席を取つてゐるではないか。

大陸進出以來、帝國の威信の保持と居留民の保護を口にして、王者のやうに一般居留民の上に君臨し、專業を起せば干渉して愚にもつかぬ統制を強ひて經營を麻痺せしめ、軍官反目の結果はその體積を居留民に向つて八つ當りする。

戦争開始頃の軍隊は確かに軍規嚴正であつた。そして在外官吏は軍の方針に迎合これ努力した。しかし、十七年中頃以來軍隊の質は急速に低下し、軍人特に將校の酒池肉林ふりは實に實に眼にあまるものであつた。軍、官、兵、と表面は格一主義の指導下に團結の鞏固であるかに見えた三者は、完全に分離してゐたのである。炯眼な敵はこの虚を衝いて重慶中共の占領地攪亂は軌道に續けられ、日本の勢力は眼に見えて破壊され、點と線さへも保證されなくなつて來たのだ。

現地農民は物資を敵地區へ流した。經濟人は物價の奔騰に拍車をかけた。十九年の末頃から、實質的な勝者の地位は完全に中國側手中のものとなつた。北京はその縮圖

夜の時頃國民學校から軍のトラックで雨降る暗の中を宣化に向けて出發した。豫定は宣化であつたが同地を通過して下花園まで直行した。一臺に約二十五名とその荷物である。この輸送隊の兵隊さん達は仲々勇敢で悪路を克服、よく吾々を運んでくれた。兵隊は香氣だ。負けても一向に口惜しさうでもなく陽氣に明るく話しあつてゐる。勝負は俺達に關係はないのだとでも云ひたげである。

貨車の半分をあけてやらねばならなかつた。それは役人達の一團であるが、荷物が

今度列車が變つて、客車の二輛連結された混合列車に乗りかへた。晴れたと思つた空は又雨模様となつて來た。無賃貨車に

死に對する覺悟は出來たかどうか、といつたことを短時間語り合つた。S子は覺悟の出來てゐる旨を答へて、當歳の子供をしつかと抱いてゐる。そしてつけ加へて云ふのである。『子供が殺せるでせうか』去年妻となつて見知らぬ蒙古の果まで來て、今年頭初には一兒の母となり、これから家庭の建設へと一足ふみしめたところをこの悲運に遭遇しなければならぬ。二十六歳の妻が、私にはこの上なく不幸に思へてな

だつたと云へるだらう。高級將校は酒氣淫蕩に眼を血走らせ、前線の將兵は苦戦に喘いだ。官吏は無能な格一主義を振り廻し、軍民の間を如何に巧みに泳ぎ廻るかに専心した。一般兵は軍官の壓迫を二重に蒙りながら、破れ服にスフのゲートルで憲兵警官に何時服違反で小づき廻されるかを恐れながら、能率の擧げぬ仕事に追ひ使はれた。

かうした三者の相互不信の中での最後の脱出行だ。全員の不満は爆發しかけたが、列車の出る頃には皆あきらめて如何にして雨を防ぐかに餘念もなかつた。二千人近い人民が、家族を合せて高々五十名にも足りないこの特權階級の横暴に對する反抗を、何故思ひ留つたのだらうか。答は簡單である軍官に對する反對は絶対にしなからぬことを剣と法規によつて八年間隙間も無く教へこまれてゐたからに他ならない。

列車は雨の中をたどると走つては降り走つては降り、それでも夜の十時頃には天津に着いた。二十日に張家口を出て以來四日、不安と焦燥の難行の中で病の爲に斃れた數名の婦女は氣の毒ではあつたが、途中敵襲による損害をさきさきに到着出来たことは誠に幸ひであつたのである。

四、收容所

天津では雨の中を收容所まで行軍するといふ最初の豫定が變つて、列車内に一泊と決つた時は皆歡呼の聲をあげた。蚊に刺されながらも、疲勞と安心とで皆ぐたり死んだ様に眠つた。ソ聯參戰から無條件降伏、玉碎を覺悟の竹槍式決戰準備、果ては

脱出とこの半月眠ることもロク／＼出来ないうで来た私達には、天津の街はよもなく有難い救ひの街に思はれたことだつた。

二十五日の夜は明けがまだ雨は降つてゐる。收容所まで歩くことは少くとも半數の者にとつては不可能な状態であつた。だがそれでも歩かねばならぬのだとあきらめた矢先、華北交通の好意で收容所の近くまで列車を運轉してくれとのこと、皆ホッとした面持である。十時頃だつたらうか列車は發車した。私は自分の組員を勵ましながら荷物整理を完了した。子供は發熱と下痢とでゲツソリと衰へ氣力を喪つてゐる。S子も下痢に悩まされて力が抜けてゐる。私は携帯の固パンをポソ／＼噛りながら、收容所はどんなところだらうかと不安と期待に胸を焦しながら憶測するのだつた。

ゴトンといふ鈍い音とともに停車した列車の前方で下車下車、と叫ぶ聲があがる。一同は再び雨に打たれながら一列になつて收容所に向ふ。荷物も身置もすつかり濡れて蒸暑い。收容所は三笠國民學校である。校舎はなか／＼立派だが一室に九十名から百二十名も詰込まれるので荷物と人との足の踏み場も無い。それでも貨車に比べれば旅の不安に比べれば、此處は天國だ。食事は一日二回ときまり、當番が各室から使役に出て一丁程先の停車場までとりに行く。石油罐に一杯入つた飯を兩手に下げてこの間を運ぶのは仲々樂ではない。それでも皆配食は嬉しうさうだ。

こゝでは、顔見知りの先客やら、意外な人が同行してゐたことを知つて喜こんだりそれまでの苦勞を忘れたかのやうに賑やか『軍は本日の會議に於て食糧事情並に保護の萬全を期するため、諸君を青島方面に送る決意をしたことは事實である。然し乍ら諸君の健康並に疲勞がそれ程と知つてゐたらこの問題について考慮したであらうが、席上大使館側から右に關する何等の説明もなく明朝四時出發可能な回答に接したのでその旨決定各方面に手配を完了したので今となつては如何ともし難い。誠に氣の毒であるから四時の出發を六時に延期する』この兩者の話を綜合すると軍官の何れかが虚偽の言明をしてゐることになる。その何れが虚偽であるかは兩者を對決させる以外に吾々には知るよしもない。

今は明朝の出發が如何に悲惨な結果に終らうとも、割當られた人員をこの收容所から選ばねばならぬ破目となつた。各班の中から事情止むを得ぬ者を除いて、殆んどが強制的に指名された。と云ふのは誰一人行きたい者は無かつたから。病兒をかゝへて泣く婦人があつた。召集解除になつて別の收容所に到着した父親が、明日は合流することになつてゐるといふのに出發せねばならぬ不運な家族もあつた。所持金が集められた。しかし責任者が誰もないので領收書を發行することも出来ない。金額、氏名、内地の住所を記入して學校長に依頼する他無かつた。一回とりあげられた刀劍拳銃などが再び各自に渡された。

六、再び天津にて

晴れるかと思つた空は、四時頃から雨となつた。降る中を、子を背負ひ荷物を持ち

にひとときを過す。夜は亦寝つかれぬ。暑い、蚊が刺す、子供が泣く。子供が一人泣き出すと他の子供達が一齊に泣き出す。大人が便所に起きる。隣りの御人の足が頭を蹴る、胸に乗る。部屋中に吊り展げられた襦袢から雫がたれる。それでも三時頃から眠つたと見えて夢は故國の土に馳せる。

約三千人の避難民が歸國の日までを如何に長く暮すべきかといふことが協議されて班長副班長が決定した。かくて自治の第一歩が踏み出された。次の晩にはまだ決つてゐなかつた部屋の割當が済んで、雨に濡れた着物も乾いてきた。子供はめつきり下痢患者が殖えてあつちもこつちも糞便の垂れ流しだ。婦人や男子達にも奇妙な發熱と下痢が襲つてきた。

五、陳情

その日の午後六時頃だつたらうか班長集合がかけられた。臨時に集合室となつた校長室で、領事館から大要次の如きことが傳へられた。天津は食糧事情が悪く、この先二ヶ月と諸君を收容することが出来ない状態なので、軍としては蒙疆地區の引揚邦人を青島に集結せしむることに決定した。明朝四時の列車で一應濟南に向つて出發するから準備して貰ひたいと、大使館から電話があつたといふのだ。

さあ一大事だ。この一週間不安と食糧不足、天候にさいなまれて健康状態は極度に悪化してゐる。この上雨の中を貨車旅行で死者の續出すること明らかだ。殊に婦女子が壓倒的に多いのだから何とか軍に交渉して出發を延期して貰はうと代表を送つて

いかにも力ない姿で各班毎に停車場へ出發した。男子はおそらく二割とはゐなかつたらう。子供の留守家族がほとんどである。しかもこの調子では何時着くか判らない。濟南まで濡れて行く他はあるまい。なんといふ災難だ。

かうして出發した列車は、途中また列車事故に災ひされて、目的地に達することも出来ず天津に逆戻りした。そしてこの爲に相當病人が出たと云ふことを聞いた。然し、この日私達は日本租界の芙蓉國民學校へ移つたので、その間の事情を詳かにすることが出来なかつた。天津の友人の好意で自動車が出来たので、組員と共に樂々と移轉出来たのは嬉しかつた。

天津はまだ敗戦前とあまり變つてゐなかつた。と云ふのは、まだ日本武裝軍によつて治安が維持されてゐたからである。變つてゐたのは吾々自身であつたらう。先日迄は、指導的民族として大道を闊歩した吾々も、今では、汽車の煤煙に汚れた顔を雨に濡れしよぼれた薄汚い一介の避難民に轉落してしまつたのだ。

申出たがこれも無駄だつた。千七百名が明日出發し、残つた者は次の列車で出發すると云ふのである。收容所内は鼎のわくやうな騒ぎだ。結果して濟南行を拒絶しやう。出發は死に行くのと同じだ。領事館大使館が、この引揚者の事情を軍に了解させることも出来ぬとはあまりにも無能に過ぎる。連中の旅行中の横暴よりは言語に絶する。激昂した引揚者達が、口々に官憲の非

あの真相を發表しろ？

長い間、眼も耳も口も塞がれてゐた人民諸君には、あの事件の真相はどうなんだらう？ あの出来事の樂屋話をぜひ聞きたい、といふやうなことがすいぶんあるに違ひない。さういふ疑問の大小をどし／＼質問し注文して下さい。

ほんとうはこうだ

これまでゆがめられてゐた事件の真相、或は現にあやまり傳へられてゐることがらの真相などは、ぜひとも大衆の前に明らかにされねばならない。さういふ事實があつたら、「目撃者」欄のためにふつて應募して下さい。但し議論はお断り、事實に限りませう。掲載分には薄謝を呈します。投稿には「真相」編輯部と明記して下さい。

『するは大國の矜持なり』の傳單を見つけた時にはさすがの私も名實共に總てに敗れたことを自覺せしはゐられなかつた。

この收容所の位置は、日本租界にあるため、何かにつけて便利であつたが、食事が悪く少いこと狭くて不衛生なことは類のものであつた。だが、外地でかうした生活の經驗を持つた者にとつては、天津はそれでも最も恵まれたところであつたらう。

邦字新聞が毎日讀めた。聯合軍の日本内地進駐状況、敗戦に伴ふ政治情勢の變化、醜態を極めた軍の解體ぶり、さては東條大將の不首尾な自殺未遂等々、何一つ心を慰める報導もない。華字紙は日本人の敗戦の自覺の不足を連日書き立てる。邦字紙がそれを取りあげて迎日記事を書く。そしては行過ぎて叱られると云ふ醜態が幾度となく繰り返へされた。

七、中 共

九月の半ばを過ぎた頃、非常に意外な事件が起つた。中共軍に占領され、邦人と云ふ邦人がその惡逆非道に依つて虐殺された筈の張家口から、五名の邦人が南口まで徒歩でその先は汽車で天津に連絡に來たことである。私は直接それらの人達には逢はなかつたのだが、人の話を綜合するとかうである。

脱出する意志の無かつた者、及び脱出することの出来なかつた日本人は、全部安全に張家口の菊尾旅館に收容されてゐる。主食その他も配給されて不足なくやつてゐるが保護の必要から夜間外出は禁止されてゐる。今度天津に來たのは、家族に連絡する

爲で、用務がすんだら又歸張すると云ふのである。更に驚いたことは中共は、軍官以外の中露建設に努力して来た一般日本人が何故逃げたのか不思議がつてゐると云ふことと、一人の子供が家族と離れて張家口に殘留してゐるので、その家族を探すことを依頼された。中共側の云ひ分ではその家族の意向によつて迎に來ても好し送り返しても好いと云ふのである。

日本に於ても中國に於ても、共產主義者は手のつけられない慘忍な悪逆者であつた筈ではなかつたか？ 我々は今日まで如何に歪めて教へられて來たものであらうか。

正義の表徴であるべき軍と官が、居留民を置き去りに逃走したといふ事實が、滿洲に於ても大陸に於ても相當にあると傳へられてゐる矢先に、敵であつた筈の中共軍は、かくの如き雅量な事實を以て示してゐる。中共の實相が正しく理解されて來るに従つて、青年は最も鋭敏に壯年者は之に次で中共及中共軍に對する關心を深めてゐた。

遂には、意を決して天津北京地區から中共に身を投ずる者が、兵と云はず民と云はず日毎に多くなつて行つた。大陸に於ては、一部の少數者を除いては殆んどが右翼的傾向の強い人々であつた、私も勿論その一人であつたのだ。而しながら眞實に勝つことは出來ない。

挺身す可く決意したのだつたが、丁度召集を解除された私の兄が北京から訪れて來て、中共入りの決意を私に打あけた。私も家族と共に中共入りの決意をしたことを彼に告げた。私達の兄弟は二人しかない、そして母は七十近い老の身を誰を頼るよしもなく子供の歸り待つてゐるに違ひない。しかも今後の日本には苦難な前途がひかへてゐる。兄の切なる願ひによつて、故國の老母の責任を持つ爲に、一應の歸國を承諾するの餘儀なかつた。だが歸國した今日でも尙も一度大陸に渡つて、中共のために働きたいと願つてゐる。

八、これが「皇軍」だつたら

收容所では故國に歸る日、故國の今後の在るべき姿、故國の人々の敗戦決意に對する不満などが、話題の中心であつた。大陸では、殊に蒙疆では空襲も少かつた。そして日本軍の武力が一應は吾々の安全を維持してゐた。結局は敗戦するだらうとは思ひながらも、少くともそれは敵が本土に上陸した後始めて來るもので、大陸の邦人はこの時戦場に玉碎するか、或はラバウルとなつて最後まで戦ふものと心得てゐた。その爲にどうせ敗れるなら早い方が好いと知りながらもなほ故國の人々の戦意の弱さに憤激したものである。だが後になつて故國の土を踏んで、廣島を過ぎ大阪を通過して帝都に立つた時、今度は道に何故もつと早く敗戦して、日本を破滅から救はなかつたのだらうかと痛惜の念にかられてならなかつた。

だ。母親が慌て、拾ひ上げると、無表情に大きくうなづいて見せて外に出て行く。だが決して親愛の情を示してゐるのではない事、その無表情な顔に現はれてゐた。糖沽に到着した。送還船江之島丸は眼前にある。誰も彼も一刻も早くその日本船に乗り込みたがる。

順次に下車が命ぜられ、型の如く携帶品の検査があつてO・K・のサインを貰つて乗船である。この間、聯合軍に指令された日本軍が荷物をポーターして呉れる。彼等兵士も亦私達同様、否それ以上に歸國したいであらうものを、と思ふとたゞ感謝が胸がいっぱいである。乗船は午後六時頃に終了した。

(林昌二)

大衆 人民 を讀もう

Table with 2 columns: Title and Author. Includes '食糧問題の解決は' by 松本健二, 'メーデーの話' by 江森盛彌, 'モスコイ(小説)' by シーモノフ, '沼尻村(小説)' by 小林多喜二.

天津の事情は、九月半ばを過ぎて、聯合軍の天津進駐が報せられる頃になつてから急に變化を示して、敗戦の苦惱が日毎に増大して來た。

十月初旬遂に米軍が進駐して來た。日本軍の武装解除は急速に實施され、機關施設も次々に接收されて行つた。ジープが中國民衆の拍手に送り迎へられ、その都度歡呼の聲が巷にどよめいた。邦人の肩身は一日と狭められる。さうした或日、中元公司附近を買物に歩いてゐると、見るから違しい米軍の工作車が道端に停つてゐて、軍用電話の架設工事でもあらうか、一人の兵が電柱に登り他の一人が地上に電話線を束ねてゐる。中國人が物珍らしさに四重五重に取巻いて、咳いたり器具に觸つたりする。だが彼等二人は全くそれに無關心で工作に餘念がない。私は考へた。これが日軍であつたらどうだらう「ゴラ！ 彼方へ行け三ピンケイだぞ！ この野郎！」怒聲と共に群衆を追散らすに違ひない。

それから數日を出でずして、また一樞事が持ちあがつた。その原因は、米軍が日本人の一人を訊問するのを見て感違ひしたのだとも云はれ、或は一邦人が路上で洋車曳を毆打したこと端を發したとも云はれるが、とにかく中元公司の附近から日租界に向つて、中國人の一團が打倒日本を高唱しながら押寄せ、路上の邦人を叩くやら蹴るやら猛烈な勢ひとなつて來た。現場に程近い吾々の收容所には、手傷を受けた者數名が逃げ込んで來る。外出中負傷した者も逃げて來る。收容所は時ならぬ非常警戒がとられた。軍隊無き現在に於ては全員力を合

せて出来る限り自己防衛する他に道は無。群衆は五百米ばかりに迫つて來た。中國人の子供が奇聲をあげて門の前を駆け抜けて行く。危険は迫る。誰の表情も必死である。其時突然拍手と歡聲が横手にあがつた。二階の窓から見張つてゐた私の眼に、時を移さず駆け付けた米兵の姿が映る。兵士は短い皮ゲートルをつけ銃剣を無難作にぶら下げて笑つてゐる。群衆は散つてしまつたらしく平穩となつた。邦人に死者は無かつた。敗戦の故を以て、どうされても仕方の無い吾々が、今まで敵として戦つて來た米軍に保護されるとは、何といふ皮肉であることか。

翌日の中國新聞には、その日の事件とそれに關連した市長の布告が掲載された。日本人に對して暴行を加へた事件が起つた。その主魁は市警察部によつて逮捕された。市長名を以て日本人に對する暴行を禁止する。違反者は處罰する。更に次の日、逮捕された暴徒の主魁は、死刑の宣告を受けた旨報せられた。

こゝに至つて又私私のことを考へねばならなかつた。若しこれが反對の立場であつたらどうであらう。軍官の情報部、又は中國人に對して勿論日本人に對してすら戦慄すべき恐怖の的であつたあのいかめしい憲兵によつて、一喝の下に記事の掲載が禁止され、その代りに、軍規厳正な日本軍の宣傳記事が挿入される可能性が多かつたのではあるまいか。

九、別離

その後こんな事件は再び起らなかつた。

幣原内閣居据りと

マツカーサー指令

江淵 駿 太郎

(一)

いはゆるマツカーサー旋風吹き荒れて、幣原内閣總辭職が改選かと大騒ぎし、世上の取沙汰喧しあつた最中である。東京の新聞には極めて印象的な總理幣原のスナツプが掲載されたのを讀者は御承知であらう。世田ヶ谷の戦災も彼らなかつた私邸で、多にしてはなま温い日あたりのいゝ縁側に、かれは私服の着心地も悪からぬげに坐つてゐる高眞だつた。忙中閑どころか、かねて肺炎のため官邸ゆきも主治醫あたり止められ、老軀これ静養にとつとあつたといふし、日本の藥劑では逆も全快には漕ぎつけなかつたらうとも云はれる。何れにせよ、先の東久邇宮内閣が特高視察制度廢止、治安維持法撤廢・政治犯釋放の指令を受け、僅か數時間にして倉皇たる退陣ぶりを見せた前例があるだけに、これより遙かに重大な指令に接しながら、當の總理大臣が悠々と日なたぼっこをしてゐる光景などは、奇異とも不思議とも形容できる事實であつた。其後幣原首相が初めて官邸に現はれ政務を見るときふくりになつても、各新聞の態度はおほむね一國の宰相がこの重大時局にどんな病氣をしてゐたかも殆ん

ど取上げてさへゐない。首相が病氣とあれば、然るべき關係が先づかれに代つて、何よりもマツカーサー司令部と緊密に連絡し、指令の趣旨を納得したうへ公式の態度を表明すべきであるが、この改選劇の一幕が幕切れになるまで、次田書記官長がたゞ一回正式訪問をしてゐる以外に、當の連絡官吉田外相さへ足を運んでゐない始末だつた。もつとも、餘り目立たないかたちをとつて、かれらの代辯人たちが意志の傳達に當つた事實はあるが、これなども幣原らしいやり方で、次田あたりの關知しないところである。旋風指令が突如官邸に舞込んだのは、松の内杜蘇の匂ひも消えやらぬ一月四日。この日官邸ではこれといふこともなく初閣議が開かれ、民衆の飢餓と寒さをよそに、平和な新春などを御老人がたよるしく壽ぎながら、ちよつとご開きにならうといふ間際だつた。思ひも設けず部厚な聯合軍指令が濺ばたのマツカーサー司令部から永田町へと届けられてきたわけだ。かねてこのこととに備へ關議には通譯を備へてをくといふやうな手廻しのよさはあり得なから、英文の指令を前に取敢えずアウト・ラインを擲んで、あとは翻譯の完成を俟ち、いづれ